

## 4 輸送障害に関する事項

### 4.1 輸送障害件数(推移)

#### (1) 輸送障害件数の推移

○平成 19 年度は、4,359 件が報告され、その内容は線路内支障、車両故障などでした。  
(対前年度 62 件減(1.4%減))

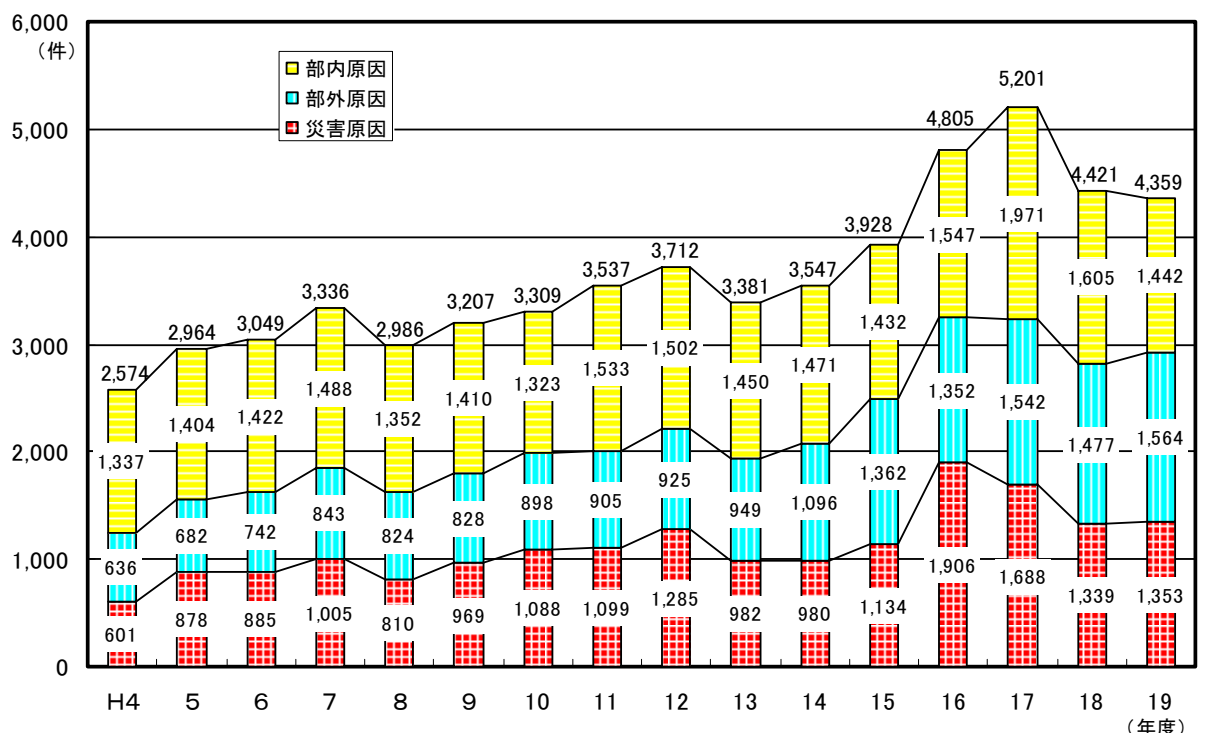
○輸送障害(列車の運休、又は旅客列車の場合は 30 分以上の遅延が発生したもの)の件数は、長期的には増加傾向にあります。近年では、年間 4,000 件を越える輸送障害が発生しています。

○輸送障害件数の 33.1%は部内原因となっており、鉄道事業者による安全・安定輸送対策の推進が求められますが、災害を原因とする輸送障害も 31.0%となっており、地震や風水害などの災害対策も重要です。

○また、部外原因による輸送障害が 35.9%となっており、安定した輸送サービスの確保のためには利用者や沿線住民等の協力が不可欠です。

○部外原因のうち、自殺による輸送障害は 640 件(対前年度 106 件(19.9%)増)でした。

#### ① JR(在来線+新幹線)と民鉄(鉄道+軌道)の合計

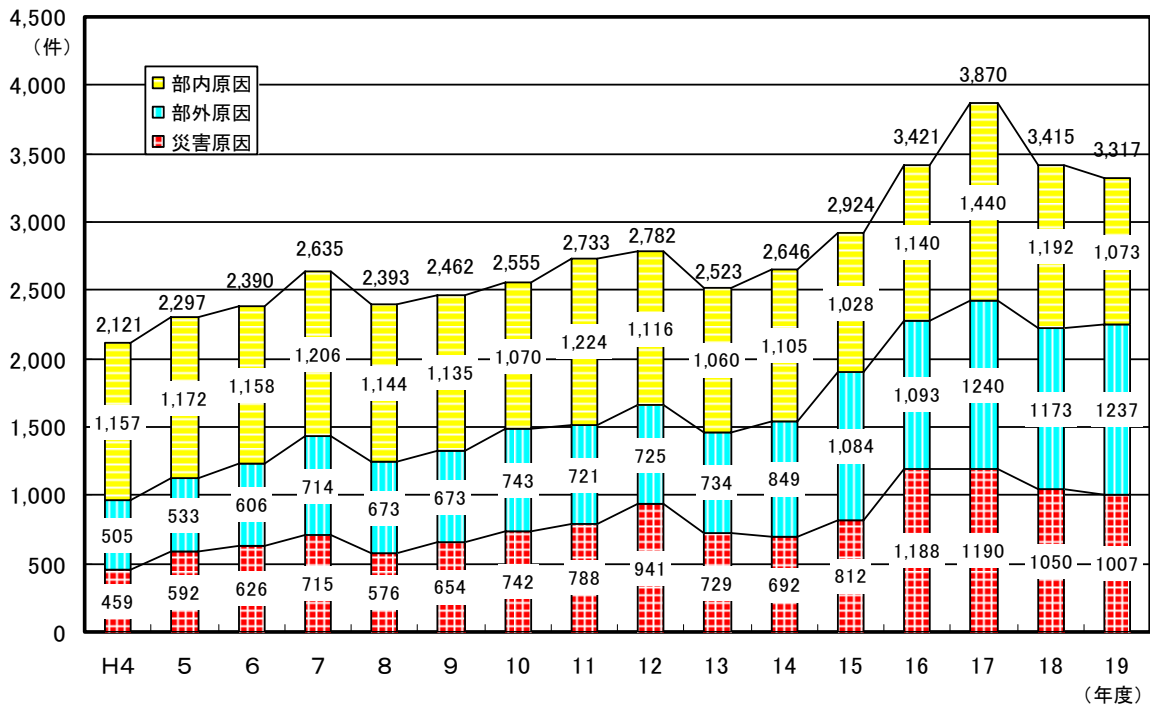


部内原因: 鉄道係員の取扱い誤り、車両や鉄道施設の故障等によるもの。

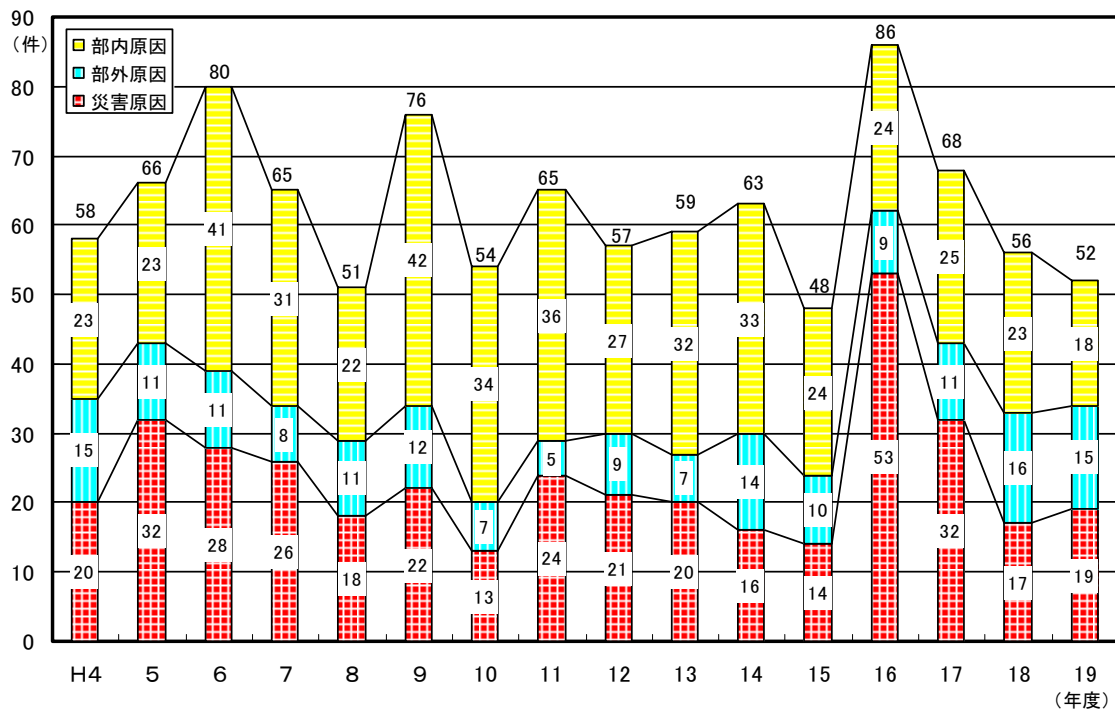
部外原因: 旅客のホームからの転落や公衆の線路内立入り等によるもの。

災害原因: 地震災害や風雪水害等によるもの。(雨量や風速が基準を超えた場合の運転見合わせ等を含む。)

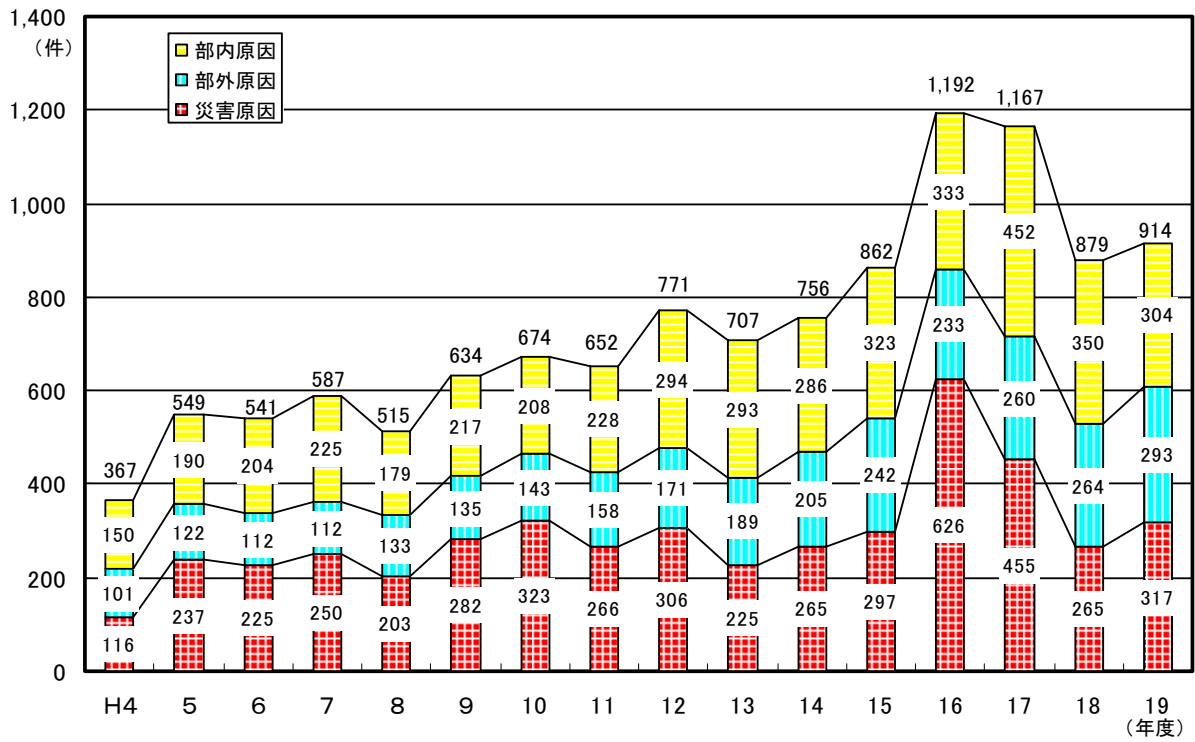
② JR(在来線)



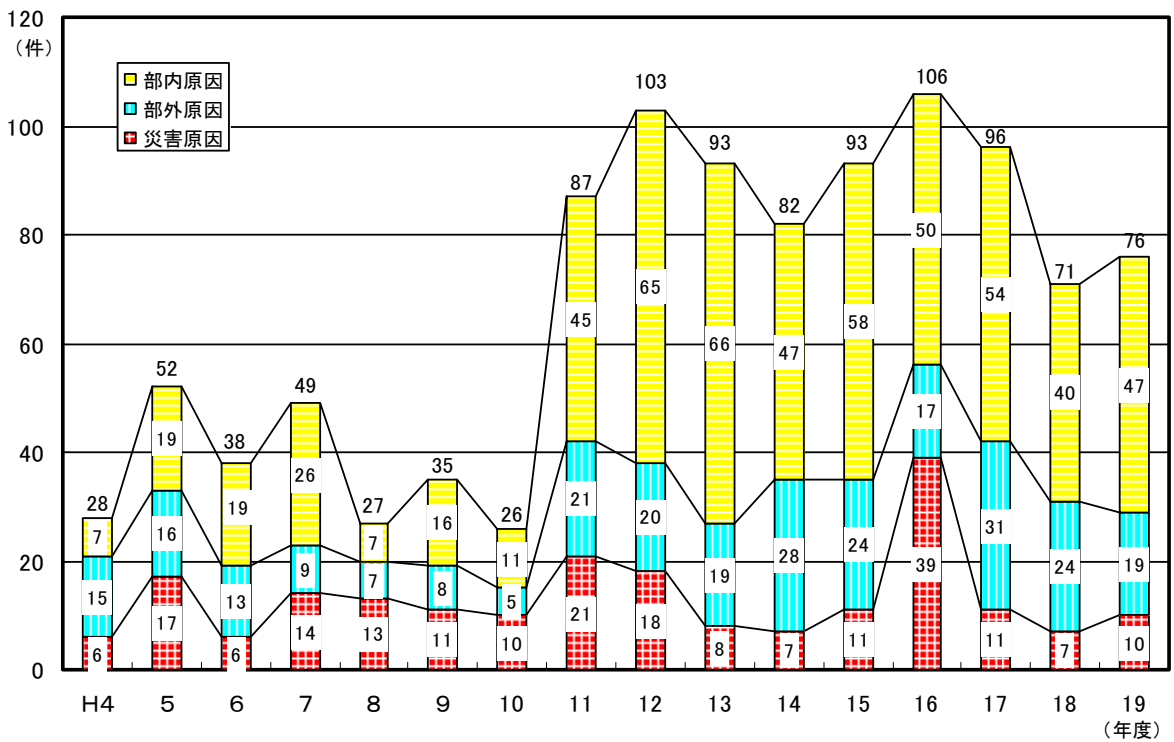
③ JR(新幹線)



④ 民鉄(鉄道)



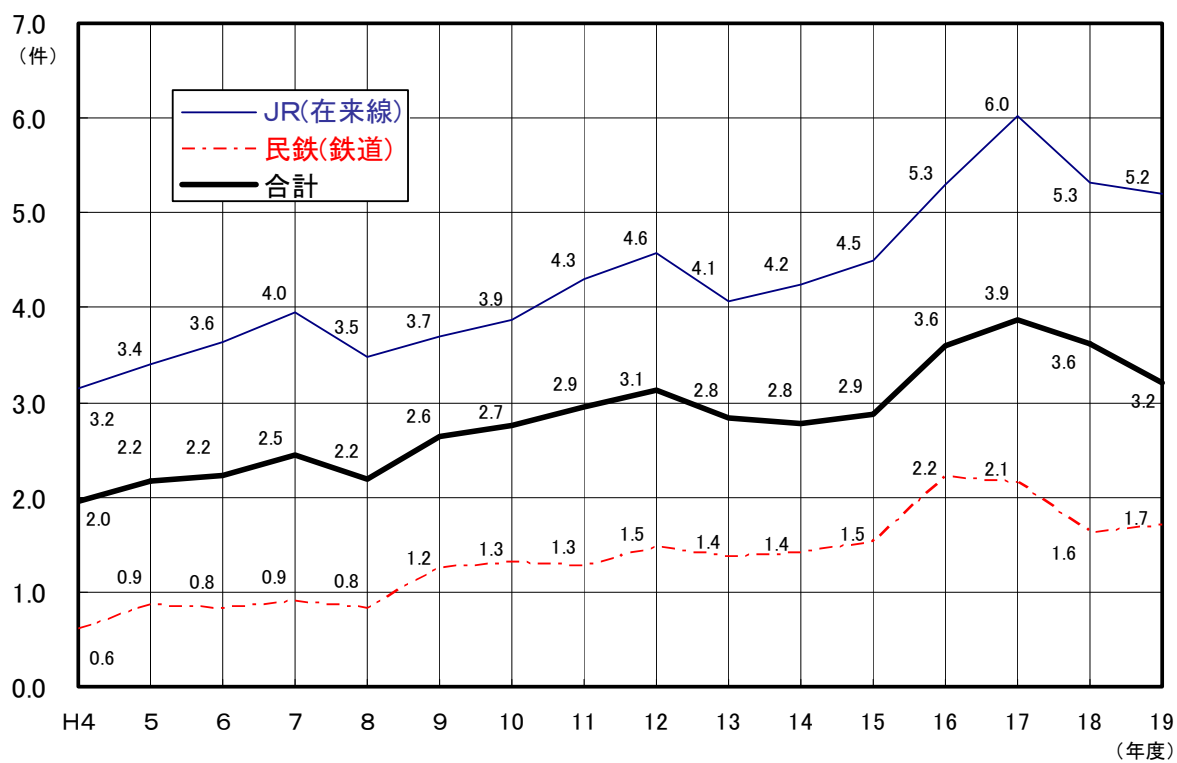
⑤ 民鉄(軌道)



## (2) 列車走行百万キロ当たり輸送障害件数の推移

○平成 19 年度は、列車走行百万キロ当たりの発生件数 3.2 件でした。

○列車走行百万キロ走行当たりの輸送障害件数は、長期的には増加傾向にあります。



#### 4.2 事業者区分別輸送障害件数

○ 事業者区分別の輸送障害件数は次のとおりです<sup>16</sup>。

原因 事業者区分	部 内					部 外		合計	列車百万 当たり件数	列車走行 扣 (百万キロ)
	鉄道 係員	車両	鉄道 施設	小計	列車百万 当たり件数	鉄道外	自然 災害			
J R (在来線)	138	691	244	1073	1.67	1237	1007	3317	5.16	642.87
J R (新幹線)	5	10	3	18	0.13	15	19	52	0.38	136.68
大手民鉄	8	21	19	48	0.15	178	49	275	0.87	317.14
公営地下鉄等	5	12	8	25	0.25	52	7	84	0.84	100.34
新交通・モノレール	4	20	7	31	1.50	6	9	46	2.23	20.61
中小民鉄	17	120	73	210	2.00	59	254	523	4.99	104.83
路面電車	2	33	2	37	1.51	17	8	62	2.53	24.52
合計	179	907	356	1442	1.07	1564	1353	4359	3.24	1346.99

(平成 19 年度)

<sup>16</sup> 事業者別の輸送障害件数の詳細を資料2に掲載しています。